

宮崎県感染症週報

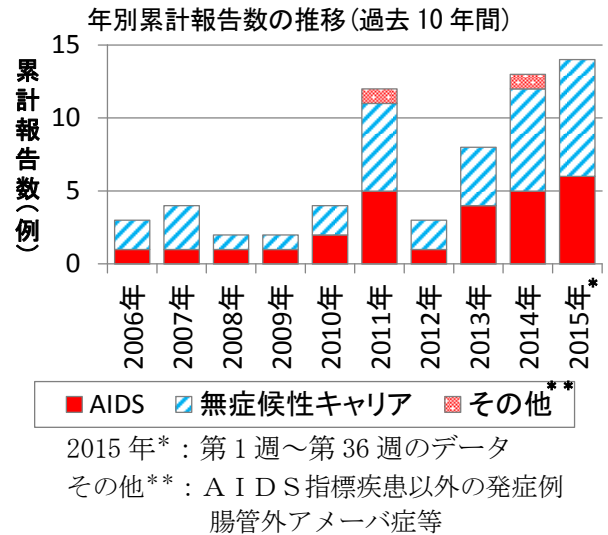
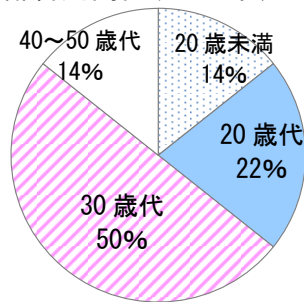
宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第36週の発生動向

トピックス

・**後天性免疫不全症候群**（全数報告の感染症）の報告が宮崎市保健所から1例あった。患者は30歳代男性で、指標疾患は単純ヘルペスウイルス感染症であった。県内の今年の累計報告数は14例で、調査が開始された平成11年以降最多となった。年齢群別では30歳代が全体の50%を占める。また、推定感染経路は性行為感染が全体の86%を占める。

年齢群別割合 (2015年、14例)



全数報告の感染症 (36週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核1例。
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症3例。4類感染症：E型肝炎1例、デング熱1例。
- 5類感染症：後天性免疫不全症候群1例、侵襲性肺炎球菌感染症1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型、病名	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	女	肺結核	咳
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	5~9歳	男	—	腹痛、水様性下痢、嘔吐、溶血性尿毒症症候群(HUS) O157抗原+
		日南	0~4歳	男	—	水様性下痢、O26(VT1産生)
			30歳代	女	—	症状なし、O26(VT1産生)
4類	E型肝炎	宮崎市	30歳代	男	—	全身倦怠感、肝機能異常
	デング熱	都城	60歳代	男	デング熱	2日以上続く発熱、頭痛、全身の筋肉痛、骨関節痛、発疹、血小板減少、白血球減少 海外渡航歴あり、血清型1型
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	30歳代	男	AIDS	発熱、咳嗽、食欲低下 指標疾患：単純ヘルペスウイルス感染症
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	80歳代	女	—	頭痛、発熱、咳、全身倦怠感、嘔吐 肺炎球菌ワクチン接種歴：なし

□ 定点把握の対象となる5類感染症

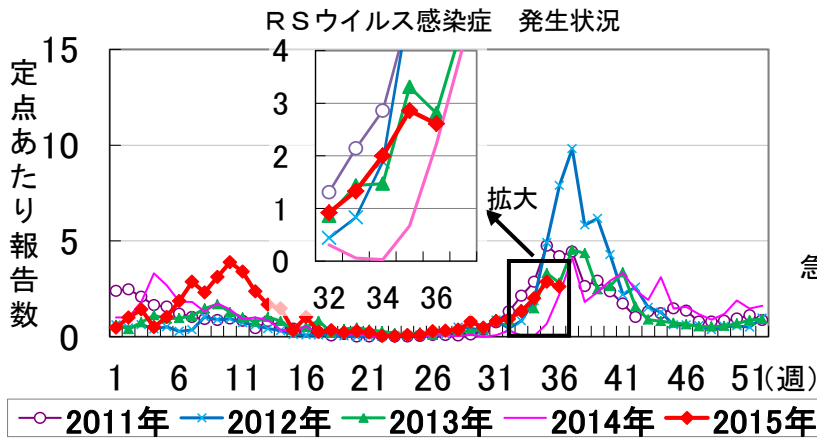
・定点医療機関からの報告総数 803 人(定点当たり 25.7)で、前週比 93%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

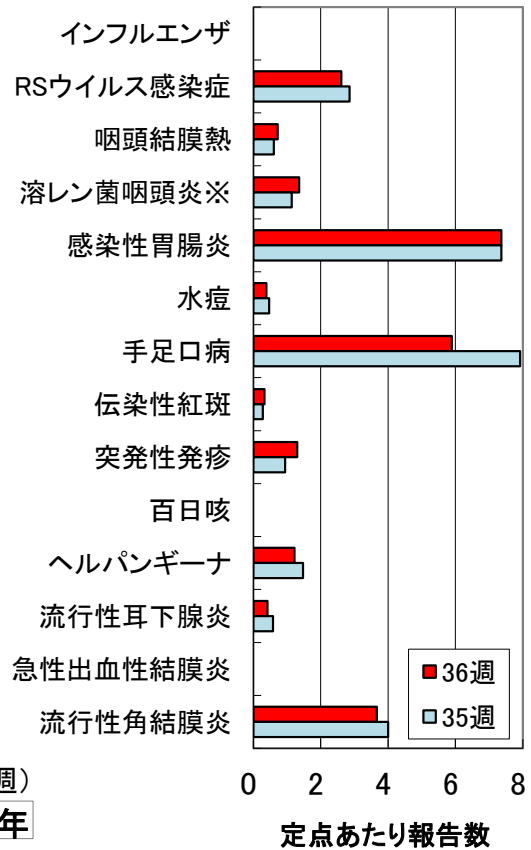
【RSウイルス感染症】

・報告数は 94 人 (2.6) で、前週比 91%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(3.8)の約0.7倍であった。年齢別では6ヶ月～1歳が全体の約7割を占めた。

*過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値。

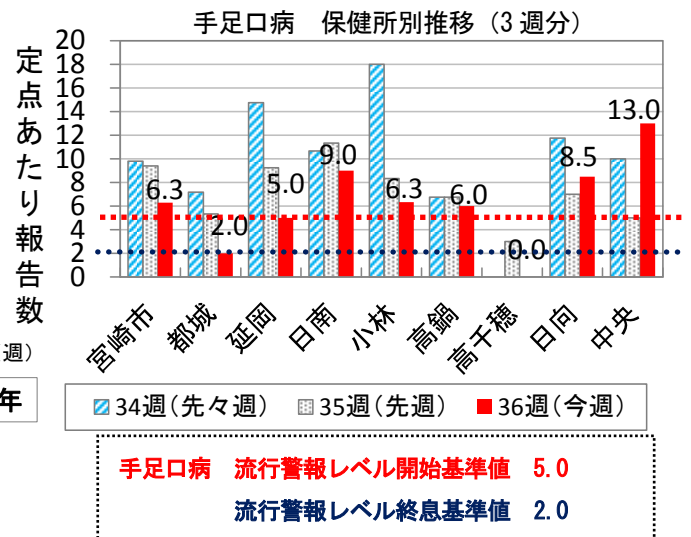
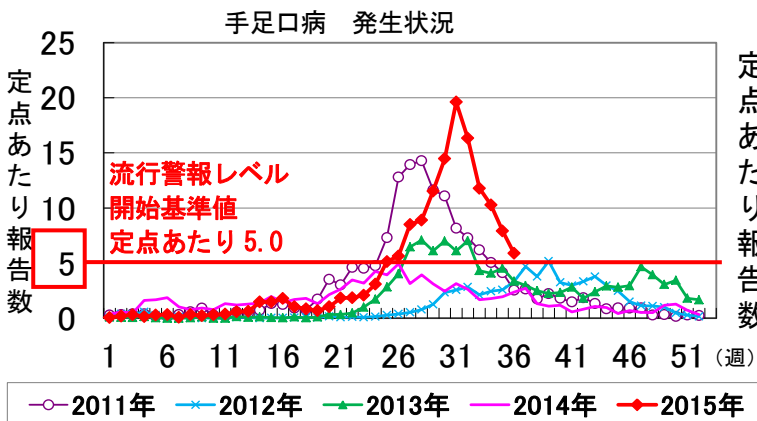


《前週との比較》



【手足口病】

・報告数は 212 人 (5.9) で、前週比 74%と減少した。流行警報レベル(5.0)を超過している。例年同時期の定点当たり平均値*(3.0)の約2.0倍と多い。中央(13.0)、日南(9.0)、日向(8.5)保健所からの報告が多く、年齢別は1～2歳が全体の約6割を占めた。



★基幹定点からの報告★

○細菌性髄膜炎：宮崎市保健所管内で1例報告があった。0歳で、血液から *Streptococcus agalactiae* が分離された。

○無菌性髄膜炎：宮崎市保健所管内と都城保健所管内で各1例ずつ報告があった。1～4歳と10歳代で、1例は鼻腔粘液からRSウイルスが検出され、1例は検査中。

★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(6.3)
都城	なし
延岡	手足口病(5.0)
日南	手足口病(9.0)
小林	手足口病(6.3)、流行性耳下腺炎(3.0)
高鍋	手足口病(6.0)
高千穂	なし
日向	手足口病(8.5)
中央	手足口病(13.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

・手足口病(5.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

・流行性耳下腺炎(3.0)

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 27 年 9 月 7 日までに検出)

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	材料	検出日
デングウイルス1型	60歳代	男	2015.09.04	デング熱疑い、SFTS疑い 関節炎、筋肉痛、発疹 肝機能障害、腎機能障害、胃腸炎	血清 血漿	2015.09.07
アデノウイルス2型	0～4歳	女	2015.07.13	不明の発疹症、39.1℃、紅斑	咽頭ぬぐい液	2015.08.31
ヒトヘルペスウイルス6型	40歳代	男	2015.07.14	脳炎、発熱、髄膜炎(意識障害) けいれん	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
ヒトヘルペスウイルス6型	0～4歳	男	2015.07.23	ヘルペス歯肉口内炎	咽頭ぬぐい液	2015.08.31
エコーウイルス3型	0～4歳	女	2015.06.22	ウイルス性発疹、38℃	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
エコーウイルス3型	0～4歳	男	2015.07.16 2015.07.17	無呼吸発作、39℃	咽頭ぬぐい液 便	2015.08.25
エコーウイルス16型	0～4歳	男	2015.08.05	ウイルス性発疹	咽頭ぬぐい液	2015.09.07
コクサッキーウイルスB4型	0～4歳	男	2015.08.03	発熱、40℃、上気道炎(咽頭炎)	咽頭ぬぐい液	2015.09.07
コクサッキーウイルスA2型	0～4歳	男	2015.07.13	エンテロウイルス感染症疑い	咽頭ぬぐい液	2015.08.31
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2015.07.13	手足口病、38.4℃、発疹(丘疹、紅斑)	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2015.07.16	手足口病、38.6℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2015.08.28
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2015.07.16	手足口病疑い、39.2℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2015.07.20	手足口病疑い、38.5℃ 発疹(丘疹、紅斑)	咽頭ぬぐい液 便	2015.08.25 2015.08.28
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2015.07.21	急性脳症疑い 39℃、意識障害、けいれん重積	咽頭ぬぐい液 便	2015.09.03
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2015.07.21	ウイルス性発疹、発熱	咽頭ぬぐい液	2015.09.03
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2015.07.22	手足口病、39.5℃、口内炎	咽頭ぬぐい液	2015.09.03
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2015.07.23	手足口病、39℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2015.09.03
コクサッキーウイルスA6型	5～9歳	男	2015.07.27	手足口病、水疱、発疹(丘疹、紅斑)	咽頭ぬぐい液	2015.09.03
コクサッキーウイルスA9型	0～4歳	女	2015.06.22	腸炎、発熱、上気道炎	便	2015.09.07
コクサッキーウイルスA9型	0～4歳	男	2015.07.13	エンテロウイルス感染症疑い 発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
コクサッキーウイルスA9型	0～4歳	女	2015.08.08	エンテロウイルス感染症疑い 38.9℃、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2015.09.07
コクサッキーウイルスA10型	0～4歳	男	2015.07.14	ウイルス性発疹、発熱 熱性けいれん、発疹	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	男	2015.06.23	ヘルペス口内炎、39℃	咽頭ぬぐい液	2015.08.25
RSウイルス	0～4歳	女	2015.08.24	肺炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.08.27

○フィリピンへの海外渡航歴のある男性からデングウイルス 1 型が検出された。病原体診断には、ウイルス遺伝子検査、非構造タンパク NS1 抗原検出、ウイルス分離がある。ウイルスは発病 1~2 日前から発熱期に血液中に存在するため、この時期に採取された検体からは、比較的容易にウイルス遺伝子の検出ができるが、解熱とともに検出されなくなる。一方、NS1 抗原は、解熱後も数日間検出できる場合が多く、イムノクロマトキットで、迅速かつ簡便に検査が可能である。しかし、ウイルス遺伝子検査と異なりウイルス型別はできない。検査法それぞれに特徴があり、検査法を組み合わせることで、より精度の高い診断を行うことが可能となる。

○脳炎と診断された男性の咽頭ぬぐい液からヒトヘルペスウイルス 6 型 (HHV6) が検出された。検体として他に、髄液、血液が採取されているが、いずれもウイルスは検出されていない。HHV6 は、唾液腺などに潜伏感染するため、咽頭ぬぐい液から検出されても、既往感染を示すのみになる。

○急性脳症疑いの乳児の便及び咽頭ぬぐい液からコクサッキーウイルス A6 型 (CA6) が分離された。検体として髄液も採取されているが、髄液からはウイルスは検出されておらず、CA6 と急性脳症の因果関係は不明である。

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同日
EHEC(O157:H7 VT1,2)	10歳代	男	2015.8.20	嘔吐、下痢、腹痛、血便	便	2015.8.21
EPEC(OUT:HNM)	40歳代	男	2015.8.19	無症状	便	2015.8.19
EPEC(OUT:H40)	10歳代	女	2015.8.21	発熱(38.6℃)、胃腸炎(下痢、腹痛)	便	2015.9.2
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4歳	女	2015.8.26	発熱(38.3℃)、下気道炎(気管支炎)、連続性咳嗽	鼻汁、咽頭ぬぐい液	2015.9.7
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	女	2015.8.26	百日咳疑、咳	咽頭ぬぐい液	2015.9.7
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	男	2015.8.26	百日咳疑、上気道炎、咳	咽頭ぬぐい液	2015.9.7
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	女	2015.8.26	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2015.9.7
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5~9歳	男	2015.8.26	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2015.9.7
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4歳	男	2015.8.26	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2015.9.7

百日咳疑いの 6 名から、百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) が検出された。百日咳は、ワクチンで予防可能な疾患であるが、近年では、ワクチンの効果が減弱する年齢層での感染が問題となっている。当所での百日咳菌検査はスクリーニングとして real-time PCR 法を、確認には LAMP 法および菌の分離を行っている。通常、ワクチン未接種の乳幼児以外では百日咳菌の分離は難しいとされているが、今回の事例ではすべて菌が分離されており、百日咳と確定された。

📊 全国第 35 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 35 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	370 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	149 例		
4類感染症	A 型肝炎	5 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	12 例	日本紅斑熱	6 例	マラリア	3 例
	野兔病	1 例	類鼻疽	1 例	レジオネラ症	26 例
5類感染症	アメーバ赤痢	19 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	25 例
	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例
	後天性免疫不全症候群	17 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	10 例	水痘 (入院例)	1 例	梅毒	57 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	風しん	3 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 101%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患は R S ウイルス感染症と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱であった。

R S ウイルス感染症の報告数は 1,689 人 (0.54) で前週比 150%と増加した。宮崎県(2.9)、大分県(2.5)、鹿児島県(2.2)からの報告が多く、年齢別では 1 歳が全体の約 4 割を占めた。

手足口病の報告数は 17,736 人(5.7)で前週比 100%と横ばいであった。新潟県(15.6)、長野県(14.6)、青森県(13.4)からの報告が多く、年齢別では 1~2 歳が全体の約 6 割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第36週(8月31日～9月6日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	103	94	55	15	12	5		2		5	
	定点あたり	2.86	2.61	5.50	2.50	3.00	1.67	0.00	0.50	0.00	1.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	22	26	1	7	2	4	1	1		10	
	定点あたり	0.61	0.72	0.10	1.17	0.50	1.33	0.33	0.25	0.00	2.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	41	49	9	13	7	2	2	4	1	9	2
	定点あたり	1.14	1.36	0.90	2.17	1.75	0.67	0.67	1.00	1.00	2.25	2.00
感染性胃腸炎	報告数	265	265	51	67	1	43	42	20	8	15	18
	定点あたり	7.36	7.36	5.10	11.17	0.25	14.33	14.00	5.00	8.00	3.75	18.00
水痘	報告数	17	14	3	3	3		1			2	2
	定点あたり	0.47	0.39	0.30	0.50	0.75	0.00	0.33	0.00	0.00	0.50	2.00
手足口病	報告数	285	212	63	12	20	27	19	24		34	13
	定点あたり	7.92	5.89	6.30	2.00	5.00	9.00	6.33	6.00	0.00	8.50	13.00
伝染性紅斑	報告数	10	12	5	3		4					
	定点あたり	0.28	0.33	0.50	0.50	0.00	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	34	47	15	3	13	5	2	4		3	2
	定点あたり	0.94	1.31	1.50	0.50	3.25	1.67	0.67	1.00	0.00	0.75	2.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	53	44	4	2	2	14	2	1		19	
	定点あたり	1.47	1.22	0.40	0.33	0.50	4.67	0.67	0.25	0.00	4.75	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	21	15		1	2		9	1		2	
	定点あたり	0.58	0.42	0.00	0.17	0.50	0.00	3.00	0.25	0.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	24	22	13	5	4						
	定点あたり	4.00	3.67	4.33	2.50	4.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1	2	1	1							
	定点あたり	0.14	0.29	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～36週)

2類感染症	結核	145例(1)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	31例(3)				
4類感染症	E型肝炎	1例(1)	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	5例
	つつが虫病	3例	デング熱	1例(1)	日本紅斑熱	7例
	マラリア	1例	レジオネラ症	3例		
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例
	急性脳炎	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例
	後天性免疫不全症候群	14例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例(1)
	水痘(入院例)	2例	梅毒	4例	播種性クリプトコックス症	2例
	破傷風	6例				

()内は今週届出分、再掲